第 20 回木津川出張所管内
河川レンジャー運営会議（H27.11.20）
資料－２

防災・減災に向けた取り組みについて

１．「防災」に関する地域のニーズ

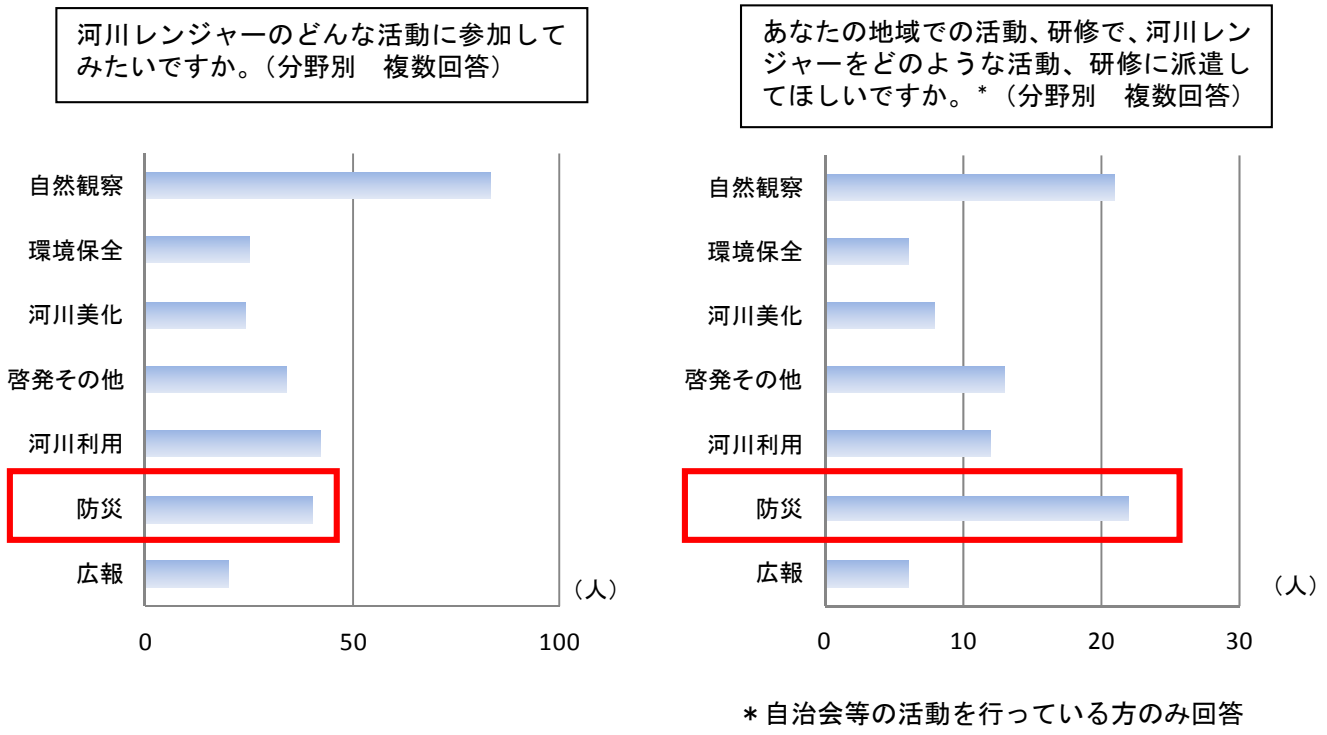
平成 26 年度に実施したアンケート調査では、河川レンジャーについて、「防災」に関する活動ニーズが高いことがわかっています。

特に、自治会における勉強会、研修会等について、「防災」へのニーズが高くなっています。

表 1.1　アンケート調査概要

項目	内容
対象	淀川管内の沿川住民
調査方法	インターネットアンケート
全回答数	420

管内の住民を母集団として、統計的に有意な標本数を推定。運営会議エリアごとの人口比にあわせて必要な標本数を算定し、インターネットを利用して収集した。



＊自治会等の活動を行っている方のみ回答

図 1.1　インターネットアンケート調査結果（活動分野ニーズ）

２.マイ防災マップ作成支援に向けた取り組み

地域の活動ニーズを踏まえ、河川レンジャーが地域の防災・減災に貢献することができるよう、平成 26 年度は、マイ防災マップ作成支援を目指した研修を実施しました。

マイ防災マップとは、自治会等の単位で災害時に安全に避難するために、避難する方々が自分自身で作り上げていくマップであり、河川レンジャーは座学でマップ作成支援に必要な基礎知識を学び、現地実習でマップ作成体験を行いました。

今後は、地域ニーズにあわせながら、学校の学習支援、出前講座、地域の勉強会、マイ防災マップづくり体験等、活動の中に研修成果を活かしていくことが可能です。

表 2.1　防災・減災研修実施概要

	開催日時	開催場所	参加人数
第 1 回研修（座学）	H26.11.6（木） 13：00～17：00	中央流域センター	17 名
第 2 回研修（実習）	H26.11.12（水） 13：00～17：00	健康ヶ丘公民館 及び三野地区現地	16 名
第 3 回研修（実習）	H26.11.26（水） 13：00～17：00	健康ヶ丘公民館 及び三野地区現地	14 名



（写真）第 1 回防災・減災研修



（写真）第 2 回防災・減災研修



（写真）第 3 回防災・減災研修

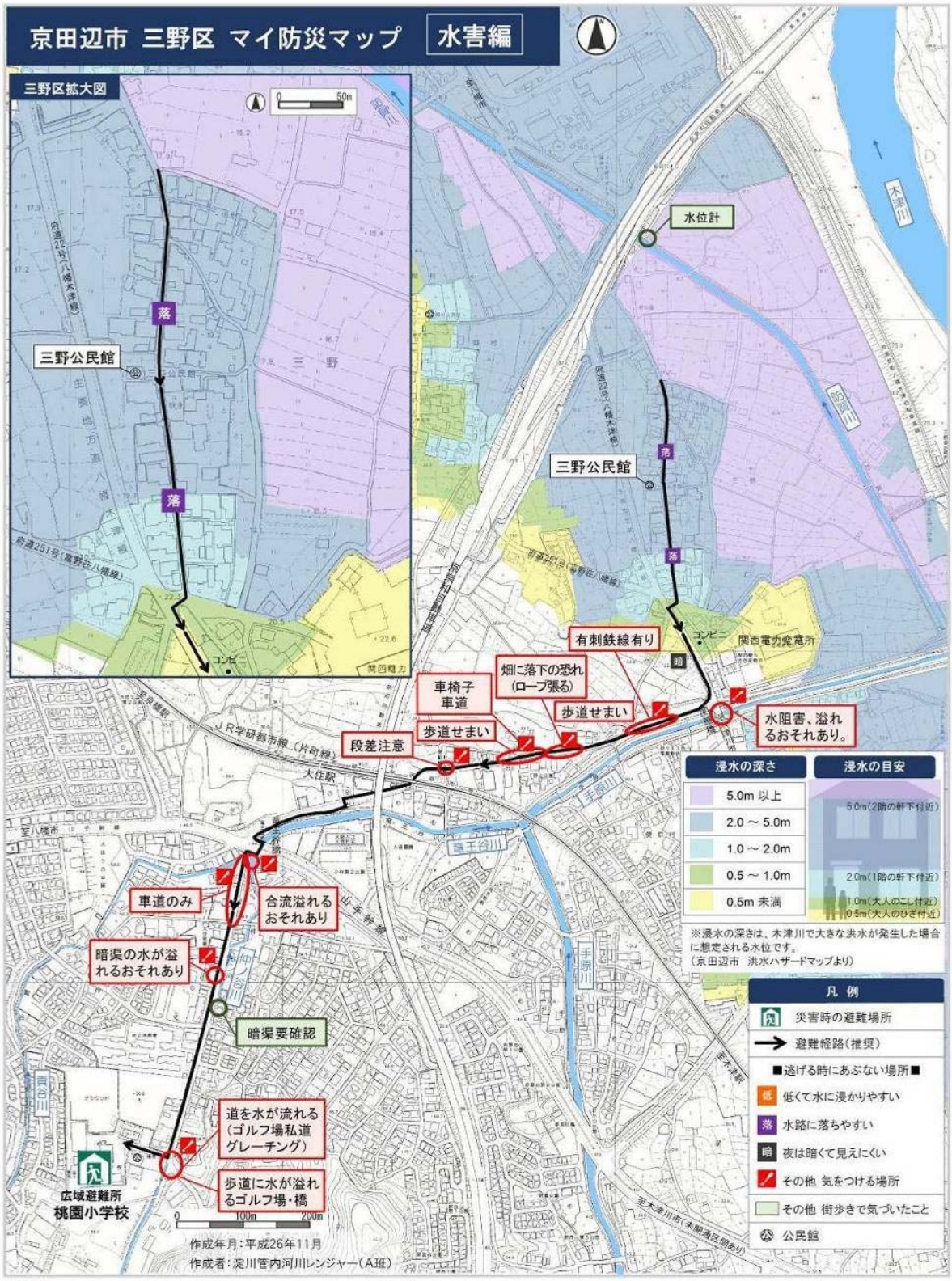


図 2.1　河川レンジャー版　三野地区マイ防災マップ（A 班）

３．南海トラフ巨大地震に対する防災・減災の取り組み

「南海トラフ巨大地震」とは、近い将来発生すると予測されている、日本列島太平洋沖の広い範囲を震源とする巨大地震のことです。

淀川流域では、大阪府、京都府では震度 6 弱以上の強い揺れが予想されるとともに、大阪市の多くの地域が津波による浸水被害を受けると想定されています。

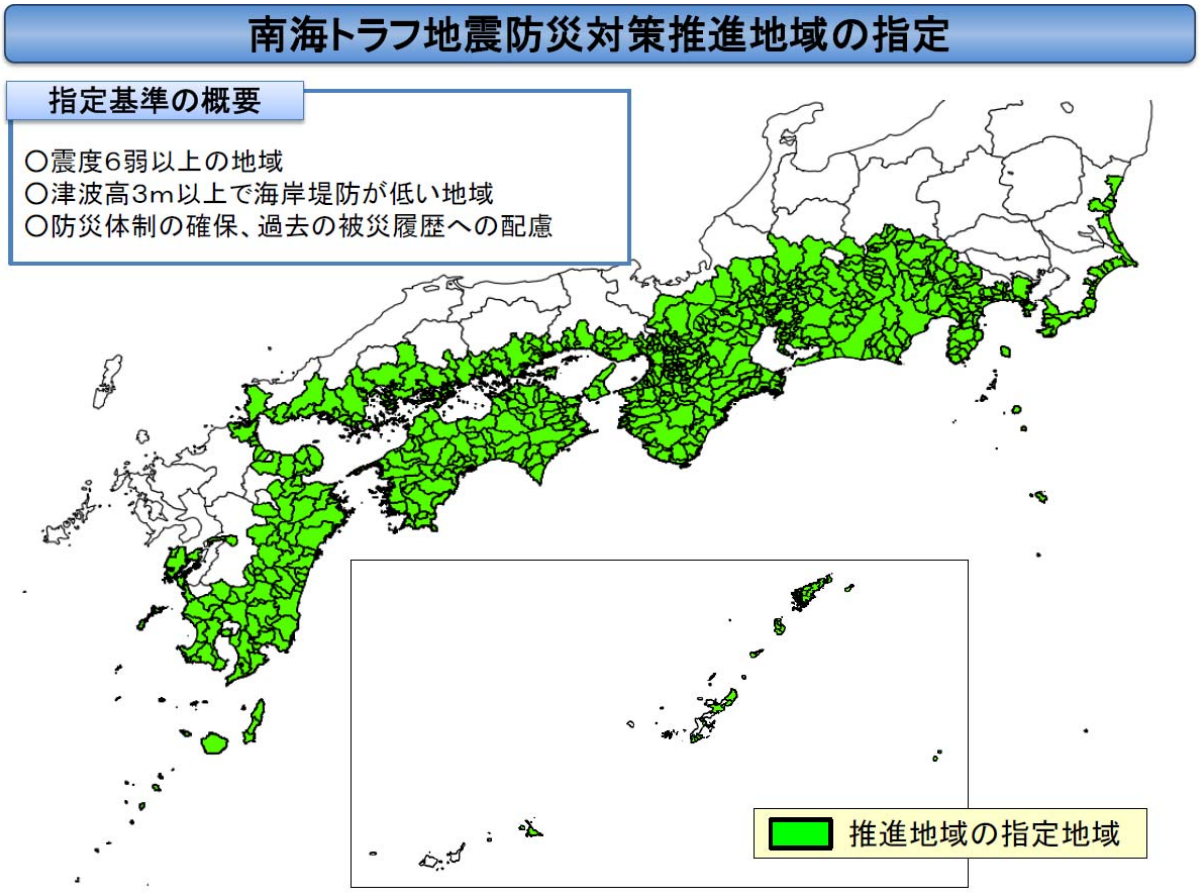


図 3.1　南海トラフ地震防災対策推進地域（内閣府「南海トラフ地震対策」）

特に下流域では、津波の襲来とその河川遡上、地下空間の浸水等に関する危険性が指摘されています。

また、パーソントリップ調査、国勢調査等から、下流域は昼間の流入人口（昼間人口）が多く、大阪市の外から通勤、通学してきている人が多いことがわかっており、巨大地震の脅威は下流域だけに限らず、淀川流域の住民に大きな被害を与えることが予想されるため、河川レンジャー全体でこの脅威に備える取り組みが必要であると考えました。

平成 27 年度は、河川レンジャーが防災・減災に関する知識を深め、住民への広報および学習実施などの活動展開ができるよう、大阪府西大阪治水事務所のご協力のもと、研修を実施しました。

（１）実施日時

平成 27 年度 9 月 30 日（水）9：30～17：00

（２）実施場所

津波・高潮ステーション及び西大阪治水事務所

大阪市西区江之子島２丁目１番６４号

（３）参加者

河川レンジャー： 14 名

（４）講師

中村　則之氏（近畿河川技術伝承会員、元近畿地方整備局河川情報管理官）

（５）プログラム

内容	場所
1.開会 2.座学①南海トラフ大地震の脅威	大阪府西大阪治水事務所
3．現地見学	①淀川陸閘 ②伝法水門、酉島みらい堤 ③安治川水門
4．施設見学	津波・高潮ステーション
5．座学②淀川への影響と対策	大阪府西大阪治水事務所
6．全体討議 河川レンジャー活動の展開に向けて	大阪府西大阪治水事務所


塚本駅
野里
淀川陸閘
姫島
福島区
福島駅
伝法水門
酉島みらい堤
伝法駅
野田駅
梅香
西九条駅
津波高潮ステーション
島屋
安治川水門
安治川口駅
九条
西区

［座学］

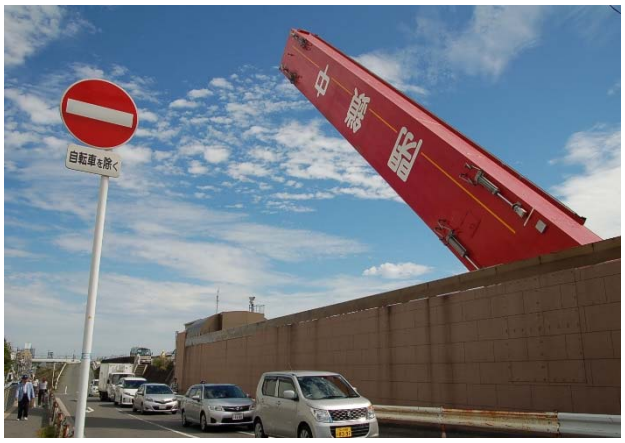


［全体討議］



［淀川陸閘見学］





［伝法水門］



［酉島みらい堤］



［安治川水門］



［津波・高潮ステーション］



４．今後の河川レンジャー活動の展開に向けて

河川レンジャーは、これまでも地域の安全を高める活動として、地域住民を対象にした土のうづくり体験や、水害体験施設を利用した避難時の模擬体験等に取り組んできました。

近年では台風 18 号（平成 25 年）による出水が記憶に新しいところですが、避難指示が発令されたにも関わらず、実際に避難する住民が少なかったことなどが指摘され、住民意識の向上が大きな課題となっています。

平成 26、27 年度の防災研修の実施により、河川レンジャーはマイ防災マップ作成の知識を習得し、近い将来必ず発生するとされる最大級の脅威南海トラフ巨大地震についても学習しています。河川レンジャーには、「住民と行政との橋渡し役」として、地域の安全度向上に大きく貢献することができます。

自治体の皆様には、レンジャーが協力できるような事業等について情報提供をお願いいたします。

◎河川レンジャーの活動事例（防災）



防災リーダーの育成



防災施設見学



出前授業「防災講座」



防災を考える学習会